



園芸作物栽培に関する

これからの対策
と
Q&A

今秋の気象概況

9月初めは北の高気圧からの吹き出しで涼しい日がありました。中旬は台風の影響もあり、日照不足気味に推移しています。現在、太平洋では黒潮の大蛇行が確認されており、この影響で東海上に水温の低い海域が出現しています。その影響

で気温も平年以上には上がらないと予想され、また、北の高気圧と南の低気圧がせめぎ合っており、気象庁では天気は周期的に変わり秋らしい陽気となるとしています。秋野菜の生育期としては比較的恵まれた気候推移となりそうです。



大門 優
園芸アドバイザー
お問合せ先
東部ふれあいセンター内営農生活課
TEL.51-8004
TEL.070-1296-1499

◎秋野菜の管理

本年は迷走する台風が目立っています。南の海上で停滞するため台風の影響は長期に及びますが、幸い本県への影響は少なく済んでおります。しかし、暖かな湿った空気の流れ込みにより、短期間で地域に集中して雨が降る傾向が強くなっています。こうしたことから圃場の排水対策はしっかりと行なっておいてください。また、野菜同士が混み合った場合は、間引きや摘葉を行なって通風採光を図りましょう。

◎害虫の防除

近年、害虫の発生が増加しており発生初期の防除が重要となっています。害虫は一回多発生してしまうと農薬散布にまつて根絶することは困難となります。防除の原則は早期発見・早期防除です。秋野菜の主要害虫はアオムシ・ヨトウムシなど蛾の幼虫で、なりにはシンクイムシの発生が多くなることも懸念されます。これら害虫には



シンクイムシの被害



今年はアブラムシが多い。



昨年発生が多かったダイコンハムシ。幼虫も成虫もアブラムシ科野菜を食害する。雑草が近いと要注意。アディオン乳剤、モスピラン水溶剤、コテツフロアブルなどで防除します。使用基準確認の上散布してください。

◎追肥と土寄せ

秋野菜の追肥は早め早めが原則です。追肥のタイミングはキャベツ、ハクサイなどは結球始め、ブロッコリー、カリフラワーでは出蕾始め、大根では本葉の7枚目位での2回目の間引きと併せて行います。追肥量はそれぞれ3号など化成肥料を使用する場合概ね1株当たり4〜5g程度(ペットボトルのキャップに1杯ほど)を目安とします。一度に追肥を多く施しますとかえって根を傷めたり、病害虫に侵されやすくなりますので注意してください。

◎雑草処理

秋野菜の管理で、雑草処理も負担となります。手取りで処理しきれない



雑草抑制を兼ねて土寄せし、畝を高くしましょう。

薬剤名	ダイコン	キャベツ	ブロッコリー	ハクサイ	レタス	ネギ	サイモ	ニンジン
ブリグロックSL	30	30	3	3	3		前	3
ザクサ液剤		45	30		30	前	30	7
バス夕液剤	45	45	前	45	30	前	30	前
ラウンドアップマックスロード	5					30		

表中の数字は畦間処理で散布する場合、収穫何日前迄使用できるかを表しています。使用可能作物はこの他にいろいろありますので、使用にあたっては確認してください。

場合は茎葉処理の除草剤を使用することになります。除草剤の中には畦間処理可能なものもありますので一覧にしました。茎葉処理剤には根まで枯らすものや薬液のかかった部分だけ枯らすものまで作用は色々ですので特徴を活かした使い方をしましょう。



畦間処理の概念図

◎農薬散布にあたって

農薬の効果は使い方によって大きな差が出ます。詳細は前年10月号に記載しましたがそれ以外に気が付いた点を整理します。

①農薬を直接タンクに入れて水を注入し希釈する方がおられますが、農薬の希釈は先ずタンクに水を半分くらい入れてからあらかじめ少量の水で溶かした薬液を入れます。特に水和剤などは必ず水で溶いてから使用しましょう。

②散布には加圧式の噴霧器を使用します。中にはジョウロに入れて作物にかけておられる方がおりますが効果は殆ど上がりません。

③病害虫は混み入ったところや葉裏に取り付きまますので、そうしたところに薬液が充分かかるよう丁寧に散布してください。

④農薬を散布したからといって病害虫が完全に無くなることはありません。特に害虫は卵から順次孵化してゆくので、10日おきに3回位繰り返し散布が必要となります。

◎越冬野菜の播種・定植

まだ夏の名残が感じられますが10月は早くも越冬野菜の準備が始まります。今月の作業としては

- ①イチゴの定植(10月上旬)・・・クラウン部分(茎部)の茎の太さが2cm程度のしっかりした苗を植える。
- ②越冬キャベツの播種(品種によっては10〜15日基準)・・・金系2001、S.F.北ひかり、秋時極早生(早なむ)。

◎イモ類の収穫

サツマイモのベニアスマは植え付けから110日過ぎ、金時系は120日過ぎから掘り取りに入ります。10月中の貯蔵は湿度、温度ともできるだけ低い所で保存します。いずれも高いとイモから芽が動き始めます。サトイモは10月に入り立っている葉が2枚程度となってきたら収穫が始まります。掘り上げた株は風通しの良い場所で十分乾燥させましょう。保存する分は株毎か大割り状態とし傷口はできるだけ小さく



タマネギの苗床。バラ蒔きと条蒔きがありますが、条蒔きの方が管理しやすい。

害虫防除剤	対象害虫				使用倍率	対象作物			
	アオムシ	コナガ	ヨトウムシ	アブラムシ		その他	大根	白菜	キャベツ
ジェイエース水溶剤	○	○	○	○	1000~1500	○14	○14	○7	○14
モスピラン水溶剤(劇)	○	○		○	1000~4000	○14	○14	○7	○14
アフーム乳剤	○	○	○		1000~2000	○7	○7	○7	○7
コテツフロアブル(劇)	○	○	○		2000	○14	○前	○前	○前
カスケード乳剤	○	○	○		4000	○14	○7	○7	○7
ハクサップ水和剤(劇)	○	○	○	○	1000~2000	○35	○前	○前	○前
エルサン乳剤(劇)	○	○	○	○	1000~2000	○30	○21	○14	○21
プレバノンフロアブル	○	○	○	○	2000	○前	○前	○前	○前
フェニックス顆粒水和剤	○	○	○	○	2000~4000	○7	○前	○前	○前
スタークル顆粒水溶剤	○	○	○	○	2000~3000	○7	○3	○3	○3
ダントツ水溶剤	○	○	○	○	2000~4000	○7	○3	○3	○3
アディオン乳剤	○	○	○	○	2000	○30	○14	○3	○3

(注)上記表は早見表として作成したので、使用にあたっては対象作物、使用倍率、散布回数などは確認し使用する。対象作物欄の数字は収穫前日数を表す。(「○14」は収穫前14日まで。「○前」は収穫前日まで(24時間前まで))